

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

Winter 2019

Vol.24

特大号

制作：P.O.法人いいた人形劇センター TEL:055-003-3583 FAX:055-003-3594 E-mail:itadpuppet@mits.janisor.jp

Dogushi Vol.24

2019年2月発行 発行：「人形劇のまち飯田」運営協議会

特集①

人形劇の図書館コレクション展
こんなにもすごい人形芝居があった!

特集②

日本と台湾の文化交流
『皮影東遊記』開催の高雄へ

chiyoko

掲示板 いいた人形劇センター
からのお知らせ

せかいの劇場vol.7

Lejo レヨ
「Hands up! ハンズアップ!」
チケット販売中!



世界のすぐれた舞台作品を鑑賞する「せかいの劇場」第7弾は、オランダから音楽がいっぱいでセリフなしの楽しい人形劇がやってきます。終演後は紙人形づくりの体験を行います。参加希望の方ははさみをご持参ください。

- 日時 / 2月16日(土) 10:40開場・11:00開演
- 会場 / 飯田人形劇場
- 料金 / 大人1,800円、子ども(4歳~中学生) 1,000円、おやこ2,500円※4歳未満無料
- 問合せ / いいた人形劇センター ☎050-3583-3594

Dogushi

並木さんぽ

第2特集で取り上げた日本と台湾との文化交流。今回、高雄を訪ねて感じたのはスタッフや公演にご来場いただいた方々があたたかく迎えてくれたこと。さらに、企画展「皮影東遊記」は飯田のことや人形劇フェスタのことをよく調べてあり、見るだけでも楽しい展示でした。この企画展は2月10日まで高雄市皮影戲館で開催されています。高雄市立歴史博物館とともに、台湾・高雄へ行く機会のある方は観光コースに入れて訪ねていただきたいスポットです。

次号は4月発行予定です。(帆)

表紙イラスト:井原千代子



View of IIDA

2019年、人形劇での初笑いは竹田扇之助記念国際系操り人形館で行われた「初春を寿ぐ竹田人形館」。糸あやつり人形劇団みのむし(京都)が獅子舞やおてもやんのほか、今話題の有名人が多く訪れるという「ニューそぼく谷ヘルスセンター」を上演。笑いを誘いました。

AVIAMA 人形劇でつながる世界の都市

ピルゼン(チェコ共和国)

およそ17万人が住むピルゼンはチェコ共和国の西部に位置し、人口が4番目に多いまち。ビールの醸造法「ピルスナー」誕生の地であり、ピルスナーという名前もピルゼンという都市名に由来しています。国内いたるところに人形劇場や人形専門店があるチェコですが、ピルゼンもその根強い人形劇文化を支える代表的な都市の1つであり、人形美術家ヨゼフ・スクーバや映像作家イジー・トルンカといった巨匠を輩出しました(人形アニメーション作家・川本喜八郎はトルンカに師事していた1人)。いいた人形劇フェスタ2018で『三銃士』を上演したアルファ人形劇場はピルゼンに拠点を置く国立劇団です。色彩豊かな木彫り人形のリズムカルな動きに魅了された方も多いのではないのでしょうか。



50年以上の活動歴を誇るアルファ人形劇場による『三銃士』。“Divadlo Alfa”の名前で調べると、チェコ人形劇の世界を垣間見ることができます



西畑／三番叟の
棒遣い人形

東北の猿倉も土佐の西畑も、明治10年代にはじまったが、猿倉は片手ハサミ遣いで、両手で二つの人形をもち、次々にさつとかしらを取替える「七変化」の場面などを見せ場とした。土佐の西畑はコウモリ傘の骨を流用した棒遣い人形で、まったく違う操作の構造だが、明治後期には、それぞれ数十から百にもなる人形座を輩出するほどの一大衆娯楽として興行をおこなうほどの規模になった点が、共通している。

猿倉人形・黒川興行の荷と人形 西畑人形・池原由起夫の人形



竹田練場を会場にして池原人形が初展示

方法が斬新でおもしろく、とても好評であった。西畑人形 池原由起夫(三代目朝日若輝)の人形は、もともとは桐壱(一般的な日本人形の製作法で壊れやすく、ほとんど古いかしらが現存していない)西畑人形を残さねばと木彫りに取組んで、すでに100体を超すかしらを製作してきたが、今回はヨ一ロッパよりも20年以上早く考案され舞台で遣われていた。ヨ一ロッパで棒遣いが出てくるのは20世紀

個性的な池原人形たち



こんなにすごい 人形芝居があった!

特集
人形劇の図書館コレクション展
いいだ人形劇フェスタ特別企画①

迫力の展示 黒川興行の荷と人形

猿倉と西畑の人形たち

2018年のいいだ人形劇フェスタは40年の節目の年。世界人形劇フェスタイバルが同時開催され、上演を観るだけでなく、人形劇の楽しみや興味を広げてもらおうと企画展示が複数開催された。知られざる伝統人形芝居の企画①「こんなにすごい人形芝居があった!」と、企画②「ごもたちのための人形劇はいつからはじまったのか? 1923・2018 現代人形劇の95年」をテーマにした4つの展示を誌上紹介。

伊那谷に今も残る人形浄瑠璃、伝統人形芝居は文楽に代表される義太夫

節三人遣いだけかと思われがちだが、じつはそれだけではない、ありとあらゆるかたちの豊かで魅力ある人形芝居の存在を、展示された猿倉や西畑の人形たちが雄弁に物語っていた。
展示は3会場に分かれ、竹田扇の助記念国際系操り人形館と竹田練場、そして川本喜八郎人形美術館で、それぞれの会場の特性を生かして展示された。なかでも竹田練場の「猿倉と西畑」の「猿倉・黒川興行の荷」は、この荷を発見した時の様子を再現したという庄巻の展示で、「西畑・池原由起夫の人形」も、世界で最初の棒遣い人形というあらたな驚きがあり、人形展示の面白さを見せていた。

発見された箱から
50以上のかしらが
出てきた

こどもたちが人形劇の最高の観客であることは
違いないが、人形劇は「こどもたちのものと思
われてきている。
日本の伝統人形芝居は、世界的にも群をぬいた存
在であるが、長らくこどもたちは人形芝居の観客
ではなかったのだ。
こどもたちが人形劇の観客となったのは、大正12
(1923)年頃、現代人形劇が動き出してからのこ
とになる。現代人形劇の嚆矢となるのが「人形座」



会場の様子 現代人形劇ポスターなども

こどもたちのための人形劇は いつからはじまったのか？

特集
人形劇の図書館コレクション展
いいだ人形劇フェスタ特別企画②

1923-2018 現代人形劇の95年



1930年頃のお茶の水幼稚園での人形劇

の関東大震災直後の試演会。ほぼ同時に幼児教育
者の倉橋惣三がヨーロッパ視察の際にパリやロンド
ンの人形劇場で観客のこどもたちの反応を目の当

今回の4つの異なる展示はそれぞれが違ったか
たちの人形劇人形芝居でありながら、共通してい
たのは舞台上演だけでなく、こうした展示も人形
劇の楽しみ方のひとつなのだとしたことだった。
「迫力のあるおもしろい展示だった」という声が多
かったのは、こうした展示という場も人形劇への
あらたな興味へつながるといふことなのだろう。

そうしてみれば、いいだ人形劇フェスタの40年と
いうのは現代人形劇の歴史の半分にも近い時間を
作り上げたことになり、あらためて飯田の人形劇の
中における重みを感じてしまふ。
こうした流れを人形劇の図書館の豊富な蔵書と
資料で展示されたが、1998年世界人形劇フェス
ティバルの出来事や、バレットマーケット誌の活動な
ど飯田に関わり深いものもあり、現代人形劇の歴史
を興味深く見ることのできる展示内容だった。



戦争中の国策人形劇が講習会などで
使用した人形(松葉重庸の複製)

竹田館では常設展示に続く部屋で、新たに発見
された江戸時代の貴重な糸操りの人形「幻の幽蘭
座の人形」が、竹田喜之助の柔らかく温かな人形と
は全く違った空気を感ぜさせていた。
幽蘭座は糸操りの二座で、その実態はほとんど知
られていないのだが江戸後期から大正3年頃まで
上演活動を行っていたことが今回の展示の準備段
階で判明した。また糸操りそのものが日本では少
なく、現在各地に残るのは山陽から山陰にかけての
いくつかのみで、それらの中に幽蘭座の影響が見て
とれるものがある。今回展示した7体は、江戸時代
後期の様子を伝える人形で、男女の人物が4体、さ
らに獅子舞い、猿、梨割(人形が真っ二つに割れる
などそれぞれが特徴ある貴重な人形たちである。



幽蘭座の典型的な
武士の人形と手板

感を持つていたことも印象的だった。海外からのフ
ィルム参加者もロケで日ごとに増え、展示会場を巡
りさまざまな日本の人形芝居のおもしろさを楽し
んで、「圧倒されるような迫力で見応えがありまし
た」との声があがっていた。

幻の大坂・幽蘭座の糸操り

獅子舞い 大型の人形
江戸時代らしさを
見せる構造



顔が割れる梨割は、ほかにも
あるが身体ごと縦に真っ二つ
に割れ、手板も二つに
分離するのが珍しい



上方の人形芝居のなかで糸操りがどのような活
動をしていたのか解明が進むことが期待される。
こうして、人形芝居にはいろいろなながたが
あり、それぞれに魅力ある趣をみせ、それぞれが存在



絵看板
黒川興行の絵看板。見世物仮設興行とし
て小屋掛けの際、正面に何枚もの絵看板を
掲げ客の注目をひいた(津崎雲仙作
1.8x3.6m)



えびす・天狗弁作



西畑の古かしら

壁面には、猿倉黒川興行の貴重な絵看
板(見世物小屋などが正面に掲げる大き
な布に描かれた上演場面の絵)が3枚、そ
こに描かれた化け猫の口が裂けるガフの
大人形(高さ1.8m)も並び、仮設興行の人
形芝居の迫力を感じさせていた。幽蘭座の
人形たちに並ぶケースには、西畑人形の古
かしら(大正頃)と阿波、淡路を中心にし
た「えびすまわし」の人形(国指定有形民
俗文化財)もそれぞれ
の操作、表現方法が違
う、人形芝居の幅広さを
示していた。



アンコールで上演した「フレンチカンカン」

11月24日は高崎市皮影戯館、25日は高崎市立歴史博物館で上演。
4公演で約300人が来場(写真は高崎市立歴史博物館)

獅子舞の人形を近くで見ると大勢が集まった。この後はしばらく記念撮影が続いた



老若男女が順番待ちで操作体験

1939年日本統治時代に建設された建物は当時、市庁舎として建てられた。1992年に高崎市役所は高崎市政府と改名され、移転。その後、1998年にこの建物は高崎市立歴史博物館として使われるようになった



『皮影東遊記』パンフレット



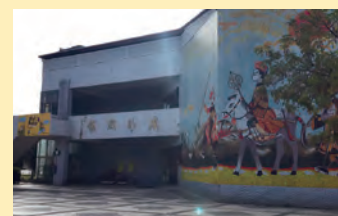
高崎市皮影戯館で開催中の企画展「皮影東遊記」。エントランスには飯田を印象付けるリンゴ、いっだ人形劇フェスタのマスコットキャラクターばおなどが展示されている(会期/2018年6月28~2019年2月10日)

人形劇を通じた日台交流

台湾の高崎市皮影戯館で開催中の企画展「皮影東遊記」の特別プログラムとして11月24日、25日の2日間、人形劇のまち飯田を代表して「竹田人形座竹の子会」のメンバー3人が糸操り人形を上演しました。2日間で4公演行い、いずれも幅広い年齢層の観客で会場は熱気に包まれました。

日本の伝統を知ってもらうおうと「三番叟」や「獅子舞」、糸操りならではのコミカルな動きが楽しい「子どもの夢」など5作品を上演。10本以上の糸を巧みに操り、人形の繊細な動きや表情を表現するうち、前列の子どもが人形と同じような動きをしたり、食い入るようにじつと見る人も。アンコールの「フレンチカンカン」では、音楽に合わせた人形の愛らしい動きに拍手がおり会場が一つに。

上演後は人形と記念撮影する人、糸操り人形を体験する人が途切れることなく大盛況の交流公演となりました。「高雄の皆さんのあたたかい心遣いに感謝します。機会があればまた上演にきたい」と竹の子会の水上隆さん。2019年以降も相互の文化交流が続きます。



高崎市皮影戯館の外壁には西遊記のタイトル絵が描かれている



2017年夏の友好提携調印式後、「影絵in台湾」展の前で(写真左から2番目が高崎市立歴史博物館 楊仙妃館長)。展示のほか、影絵の公演やワークショップもあり、私たちがまだ知らない台湾の文化に触れる貴重な機会となった



企画展のフロアには2017年夏に飯田市川本喜八郎人形美術館で開催した「影絵in台湾」の展示に加え、展示期間中に上演した高崎市永興楽皮影劇団の様子も

飯田市の自然や風景、文化に触れ、いっだ人形劇フェスタのこと、2017年の飯田と高雄の交流について目で見て楽しい展示に



わくわく イベントスケジュール

竹田喜之助人形展

2月24日(日)まで
会場/飯田市川本喜八郎人形美術館3Fスタジオ
料金/大人400円、小中高生200円

人形劇とうたのお楽しみ会

2月9日(土)10:00~13:30開演
会場/飯田市竜丘公民館
料金/200円(3歳未満無料)
飯田市立保育園保育士の人形劇研修発表会

いっだ人形劇まつり りんごっこ劇場 vol.15

2月17日(日)10:30~13:30開演
会場/飯田女子短期大学アシアホール
料金/200円(3歳未満無料)
出演/地元アマチュア劇団6組

せかいの劇場 vol.7

2月16日(土)11:00開演
会場/飯田人形劇場
出演/Lejo レヨ「Hands up! ハンズアップ!」(オランダ)
料金/大人1,800円、子ども(4歳~中学生)1,000円、
おやこ2,500円(大人・子ども各1枚)※4歳未満無料

人形劇定期公演 2月

2月23日(土)10:30開演
会場/飯田人形劇場 料金/200円(3歳未満無料)
出演/人形劇すずらん、ザ・スリーデイズマーケットシアター ほか

人形劇定期公演 3月

3月17日(日)10:30開演
会場/飯田人形劇場 料金/200円(3歳未満無料)
出演/わたちゃんのほのぼの劇場 ほか



人形劇団わたぐも
伊藤 進

翌年以降も参加するうちに「卒業してかたかどうか、大学3年の時に愛知県下の学生

うな時間でした。分には、まさに夢のよ

年一度の同窓会 飯田の初参加は35年前。入部したての学生サークルで何も知らないまま連れてこられました。地区公演後の地元の方による手厚いおもてなしに感動し、夜は「りんごん」を踊りま

第13回 すべての道は 飯田へ通ず



飯田駅横アイ・パークにあるモニユメントの劇団プレート前で



お別れパーティ(1986年)。前方の一番左が筆者

で立ち上げたのが今の人形劇団わたぐも。アマチュアでここまで続けてこられたのも飯田があったからと言って過言ではありません。

残念なのは、学生の参加が年々減っていること。この時期に試験があったり、学生サークル自体が減っていたり、自分のいたサークルもメンバー不足で廃部に。若い世代といかにつながっていくかは、どこも課題ですね。

フエスタでの新たな出会いもうれしいですが、昔から来ている劇団や支えてくれているスタッフの方々とお会いするのも大きな楽しみ。飯田は、そんな懐かしい方々に年1回出会える同窓会のような場です。

次号は「人形劇団」との前田耕さんです

Library Cafe

飯田とつながる世界の人形劇図書資料から②

『演劇研究 第1号』演劇博物館紀要(創刊号)

早稲田大学の「演博(えんぱく)」(1928年創設)といえば、日本で唯一の演劇の博物館で、「ここには演劇のすべてがあります」というほどに、人形芝居も数多くの資料収集があり、研究活動も大きな成果を上げている。その創設35年を経て発刊した紀要の創刊号に、演博研究員の林京平「報告・伊那谷の人形」(115-124頁)が、黒田、上古田、大田切、早稲田、金野、桐林、今田の7座を紹介して当時の現況が明解簡潔にまとめられた内容で、とても興味深い資料といえる。『伊那谷の人形芝居文書目録編』(美博1996)の文献資料一覧に未掲載だが、こうした紀要等に多く取り上げられているのは、伊那谷の人形芝居が日本の人形芝居の中でも重要な存在であるからなのだ。

(人形劇の図書館館長・湯見英明)



早稲田大学坪内逍遙記念演劇博物館
1965.12.25 発行

オトナのための人形劇講座 Vol.2

染・織と 人形芝居

1月14日成人の日に、地域の伝統文化や地場産業と人形芝居の結びつきを学ぶ講座の第二弾が、飯田市上郷の黒田人形浄瑠璃伝承館で開催されました。地元をはじめ、県外から大勢が参加し、地域の華やかな伝統文化を見て、聴いて楽しみました。



「上郷の染・織と黒田人形」と題し、それぞれのつながりを時代背景とともにわかりやすく解説した上郷史学会会長 中島正昭さん、筒井捺染工場 筒井克政さん、筒井和服 筒井康之さん(写真右から)



「瓢箪」の柄を細かく染め抜いた着物。その技は近づいてじっと見入ってしまうほど。和服姿の方も多くいらっしゃいました



筒井捺染工場が所有する型染め用の「型紙」の数々。柄の種類、染め方の方法など参加者の質問にこたえる筒井克政さん(写真左)

型染めの染め見本の数々。なかには昭和30年代のものも



飯田女子短期大学茶道部による抹茶の振る舞いも。和服姿で講座に花を添えてくれました



黒田人形の座員から教えてもらいながら、一体の人形を三人で操る「三人遣い」の操作方法を体験しました



黒田人形保存会が「寿式三番叟」「鎌倉三代記 三浦別れの段」(写真)を上演しました

これからの定期公演

人形劇講座参加者が次々に成果発表。
市民劇団の上演もお楽しみに!

2月23日(土) 10時30分開演

出演

- 人形劇すずらん「さととかに」
- ENGI家 喜隣「こぶとりじいさん」
- ザ・スリーデイズマーケットシアター
「みっかぼっちと、
悪いヤツらの恩返し」

3月17日(日) 10時30分開演

出演

- くまっこや一座「おおきなかぶ」
- なかがた座「サンバ・ショー」
- わたちゃんのほのぼの劇場
「三びきのやぎのガラガラドン」

いずれの公演も

会場／飯田人形劇場
料金／200円(3歳未満無料)
問合せ／いいだ人形劇センター
☎050-3583-3594

「スタンプカード」やってるよ!

定期公演を観劇すると
スタンプ1個もらえます。
3個集めて水引指
人形などの特典と交換
しよう!



中級コース

飯田で創作活動ができるグループ・個人を対象に、
新作づくりをサポート

人形劇すずらん「さととかに」

2017年度の初級コースに参加後、続けて新作づくりに挑戦。譲り受けた人形に手を加え、大道具は新たに制作。前作同様、メンバーの元気のよさが伝わる、観ていて微笑ましくなる作品に仕上がってきました。

2月
成果発表



でんでんむし「おたまじゃくし海へ行く」



今夏初演
予定

今夏の上演をめざして2年計画で取り組んでいます。途中、台湾の雲林国際フェスティバル出演のため別の作品の稽古に励み作品づくりを休んでいましたが、1月から再始動。これから急ピッチで人形制作、稽古と進みます。



3月
成果発表

くまっこや一座「おおきなかぶ」

地元の公共施設で読み聞かせなどのボランティアをする中で人形劇を上演したい、と北安曇郡松川村から参加した松田晶弘さん(写真中央)。当初はひとり芝居を予定し、一人で人形づくりをしていましたが、ボランティア仲間の協力を得て上演することになりました。

初級コース

初心者対象。作品選びから人形づくり、
上演までを楽しく体験

なかがた座「サンバ・ショー」

モノづくりに興味があり、「人形劇のまち」に住むなら人形劇を体験しようと思った岡田倫英さん。地区の催しで上演できる短い作品を、と音楽にあわせて舞う人形劇を考案。石膏で型をとり、張子で表と裏2つの顔を持つ人形を制作。人形操作の練習にも力が入ります。



3月
成果発表

突撃!!

人形劇の ゲ・ン・バ Part 20 スペシャル

人形劇講座の成果発表迫る!

いいだ人形劇センターが開催している人形劇講座。2018年度は初級コース3グループ、中級コース2グループが参加し、作品づくりに励んでいます。講座開始から半年、人形や舞台セットなどが完成し、集大成となる成果発表に向け稽古に熱が入る様子をおさえるべく「ゲ・ン・バ」へ直行しました!

ENGI家 喜隣 きりん 「こぶとりじいさん」

伊那市の福祉施設で働く山岸深雪さん。いずれ、施設に通う子どもたちと一緒に人形劇を上演したいという思いから、まず自分が体験をしてみたいと参加しました。建築を学んだ経験から人形・舞台美術は講師が太鼓判を押すほどです。



2月
成果発表



「ねほりん」を操演する筆者(写真左)。2018年5月、飯田市川本喜八郎人形美術館で開催された企画展「ねほりんばほりん展」イベントにて

書かれています。ディレクターやカメラマンの意図を読み取って、カメラに合わせる人形の気持ちが一番適切に表現できるように、調整していきます。

演技の間にズームアップされることもあります。アップに変わるタイミングを生かして人形の表情を変えると、表現が大きくなります。

意識しなければならぬことが多くて目まぐるしいですが、カメラとの『セッション』が決まると、スタッフの方々とみんなで喜ぶことが出来ます。映像特有の、共演者、だと思えます。

そして、一緒に面白いものを作るためには、やはり役の気持ちを読み込むことが最も大切なことです。

第4シーズンもあるかな? 頑張ります!

現在、NHK Eテレで「ねほりんばほりん」第3シーズンが放送されています。ご存知のようにこの番組は、人形によるトーク番組です。下手にゲスト(フタの人形)、上手にMC(モグラの人形)が、向かい合うように座ってお喋りします。人形の位置は、あまり変わりません。その代わりに5台! のカメラが撮影しています。

舞台上で言えばお客さんがいらつしやるところにカメラが5台並んでいます。1台のカメラに映る絵をすべてのお客さんが観ることになりますので、カメラが客席全体と言えます。舞台はそのままで、客席が次々変わるような感覚です。

カメラによって、人形の視線がどこを向いているか、見え方が変わります。胴串の傾きも違って見えます。どの台詞をどのカメラで撮るかは、台本にすべて

劇人協会通信

映像と人形・ 人形劇 その8

日本人形劇人協会
友松 正人

日本人形劇人協会
舞台や映像番組で活躍している実演家と人形劇に係わる仕事を職業とする専門人形劇人の組織。人形劇人相互の親睦交流、活動条件の改善と社会的芸術的地位の向上をはかることを目的に1967年に設立されました。